

パクリタキセル・カルボプラチン・ベバシズマブ療法

治療スケジュール

	外観	お薬名	薬の効果	スケジュール (点滴時間)	
				1日目	2-21日
1		ジフェンヒドラミン錠	アレルギーを抑える	内服 (パクリタキセル投与前)	お休み
2		グラニセトロン デキサメタゾン ホスアプレピタント	吐き気止め アレルギーを抑える	30分	お休み
3		パクリタキセル	腫瘍の増殖を抑える	3時間	お休み
4		カルボプラチン	腫瘍の増殖を抑える	2時間	お休み
5		ベバシズマブ	腫瘍の増殖を抑える	初回90分 2回目以降 30分	お休み

☆点滴治療中に気をつけて頂きたいこと
＜アレルギー症状＞

*2回目以降でも出てことがあります。

*点滴2時間以内に出ることが多いです。

- ・ 息苦しい
- ・ 顔がほてる
- ・ 胸が痛い
- ・ 汗が出る
- ・ 心臓がドキドキする
- ・ 発疹が出る

このような症状があればすぐに看護師に伝えてください。

治療の副作用について

吐き気 嘔吐

個人差はありますが、点滴開始後1～4時間後より始まり、通常1～7日以内に治まります。

<対策>

- ・ 食べられるものを無理せず、食べられるだけ食べてください。
- ・ 水分をなるべく摂ってください。（スポーツドリンク、お茶など）
- ・ 脂っこい食べ物は消化に悪いので、適度に食べてください。
- ・ 気分転換に音楽を聴いたり、自分の好きなことをするのも良いです。
- ・ 吐き気止めの薬があるので、我慢せずに看護師に伝えてください。

骨髄抑制

血液の成分（白血球、赤血球、血小板）が低下することで、骨髄抑制は、治療後8～12日頃に起こりやすいです。

1) 白血球が低下すると感染症を引き起こしやすくなります。

<症状>

- ・ 風邪のような症状（咳、熱など）
- ・ 膀胱炎のような症状（排尿時痛など）

<対策>

- ・ 人ごみを避けてください。（外へ行くときはマスクを付ける）
- ・ 外出から帰ったら、うがい、手洗いをしてください。
- ・ 傷をつくらないようにしましょう。
- ・ 入浴、歯磨きをしっかりと体を清潔に保つようにしましょう。
- ・ 必要に応じて、抗生物質や白血球を増やす薬を使うことがあります。

2) 赤血球が減少すると、貧血症状（動悸、息切れ、だるさ、ふらつき）が起こります。

<対策>

- ・ ゆっくり起き上がるようにしましょう。
- ・ めまい、ふらつきがひどい時は、看護師に伝えてください。

3) 血小板が減少すると、出血しやすくなります。

<対策>

- ・ やわらかい歯ブラシで、やさしく歯磨きしてください。
- ・ 鼻を強くかまないでください。

高血圧

血管新生を抑える薬による治療を行うことで、高血圧になることがあります。高血圧に対しては、一般的な経口降圧薬による治療が行われ、程度によっては血管新生を抑える薬による治療を中止することもあります。以下の症状があれば、すぐに担当医に相談してください。

- ・ がまんできない頭痛がする
- ・ 気分が悪く、吐き気がする
- ・ 意識がもうろうとする

尿たん白

高血圧の患者さんに血管新生を抑える薬による治療を行うと、たん白尿がみられる割合が高くなる傾向があります。尿中に通常よりも多い量のたん白がみられる場合は、腎臓の働きが悪くなっている可能性があるため、注意が必要です。治療期間中は、定期的に尿たん白を測定する必要があります。

鼻血などの出血

10人中2～4人に、鼻血や歯肉、膣などの粘膜から軽度の出血がみられることがあります。鼻からの出血は通常軽く、自然または鼻にティッシュをつめることで止まります。

以下の症状があれば、すぐに担当医に相談してください。

- ・ 強いふらつきを感じたり、気が遠くなりそうな場合
- ・ 10～15分たっても血が止まらない場合

動脈や静脈の中に血のかたまりができる（血栓塞栓症）

動脈や静脈という血管の中に血のかたまり（血栓）ができたり、血栓によって血管がふさがったり（塞栓）して、下記のような病気が起きることがあります。

- ・ 動脈に起こる血栓塞栓症：心筋梗塞、狭心症、脳梗塞など
- ・ 静脈に起こる血栓塞栓症：深部静脈血栓症、肺塞栓症など

過去に同じ病気にかかったことがあったり、高血圧の方、高齢の方は注意が必要です。

脱毛

個人差はありますが、投与3～4週間後あたりから毛が抜け始めます。脱毛は一時的なもので、投与が終了して6～8週間後ごろには毛が生え始め、約半年でほぼ回復します。

<対策>

- ・ 毛先のやわらかいブラシを使いましょう。
- ・ シャンプーは中性の刺激の少ないものを使いましょう。
- ・ スカーフ、帽子、かつらなどを使う方法もあります。

＊カツラのご相談は外来化学療法室看護師までお申し付けください。

神経障害（手足のしびれなど）

治療後2～3日から起こることがあります。投与の回数を重ねるうちに増強する場合があります。適切な対応とるために早めにご相談ください。また、日常生活に支障をきたすことがあればお伝えください。感覚の麻痺した手や足への切傷ややけどに注意しましょう。

筋肉痛・関節痛

関節や筋肉の痛みは治療2～3日後に、起こることがあります。ほとんどは一時的で5～6日以内に回復しますが、つらい時は痛み止めを使用したり、保温や冷却を行うのでご相談ください。歩行時は転倒に注意しましょう。

下痢・便秘

薬を使ってコントロールできます。下痢のときは水分補給に心掛けましょう。排便時は肛門周囲を清潔に保ちましょう。

間質性肺炎

頻度は非常にまれですが、重篤な副作用です。発熱、乾いた咳、息苦しさが見えたら、すぐに医師の診察を受けてください。

主な副作用を記載していますが、気になる症状があれば、担当医、薬剤師、看護師にご相談ください。